

SKV・SIVが集結 防災への思い新たに

11月19日には専修大学ボランティア推進委員会
がS I Vと協力し、防災食フェアを実施。生田
キャンパスに地震体験車が設置され、多くの学
生が震度7を体感した

ていきたい」と話した。
引き続き、帰宅困難者支援施設運営ゲームの専修大学版「S-KUG」のワークショップを実施。卒業生と現役メンバーが協力して、各自の知見を生かしながら、避難所運営を体験した。

地域清掃活動「Clean Town in KANDA」が千代田区の一斉清掃日でもある11月6日に行われた。SKV（専修神田ボランティア）と神田ECOボランティアのメンバーを中心に、教職員や学生、地元町会（神三町会、北神町会）の方々と約100人が参加し、1時間30分にわたって活動した。

そろいのTシャツを着た参加者は、神田キャンパスから最寄り駅である水道橋、神保町、九段下の3方面に分かれ、歩道や路地などのゴミを拾った。



デートDVについて理解を深めたワークショップ



<p>恋人間の暴力「デートDV」の予防と啓発を目的にしたワークショップが11月5日、生田キャンパスで開かれた。</p> <p>川崎市と本学キャンパス・ハラスメント対策室（内藤光博室長）の共催。永野由紀子人間科学部教授の「家族の社会学²」の授業内で行われ、学生約140人が座学とグループワークを通じて理解を深めた。</p>	<p>係、服装、予定、SNSなどを制限・監視する行為も暴力にあたる。そこから身体的、精神的、経済的暴力に発展していく」と注意を促した。</p> <p>グループワークでは、架空の事例をもとに、被害者・加害者双方の気持ちや、被害者の友人としてできることを考えた。</p>
<p>3組に1組の割合で起きていと言われるデートDV。講師を務めた認定NPO法人エンパワメントかながわ（横浜市）理事長の阿部真紀さんは、大学生にとっても非常に身近な問題だと強調し、「交際相手の交友関</p>	<p>人間科学部の2年次生は「デートDVという言葉の意味は広く、さまざまな暴力が含まれることが分かった」と話した。</p>

戦後政治と「首相演説」4
2005-2024

書館では、地域包括支援

本書は戦後80年に及ぶ
日本政治を踏まえて、首
相による全ての国会演説
Ⅱ「施政方針演説」・「所
信表明演説」を新しい分
析方法で紹介している。
全4巻で、1巻が19
45～1964年、2巻
が1965～1984
年、3巻が1985～2
004年、4巻が200
5～2024年を扱って
おり、戦後政治の課題を

藤本一美 著

戦後政治と
首相演説
2005-2024
藤本 一

情報学。

概観できる。

本書を執筆したのは、筆者自身が生きてきた戦後政治の歴史を再認識することであり、また国立国会図書館に勤務していた時に目にした歴代首相の演説内容を、改めて探りたかったからである。

本書では、毎年の政治状況を概観した上で、時の内閣の特色に触れ、首相演説の内容を新聞の社説などを利用して紹介。

その上で、五つの項目にわたり独自の分析を試みている。(専修大学出版局・各巻税込込み3740円)

著者(ふじもと・かずみ)名誉教授。政治学。

川崎市多摩区にゆかりのある専修、明治、日本女子の3大学の学生による「多摩区3大学コンサート〜水と緑と学びのまち〜」が11月8日、多摩市民館大ホールで開かれた。本学からは、ジャズダンスサークルDance Team MISAki (DTM) が初出演し、全6曲を熱演した。

DTMは学年ごとにチームを編成し、時に優雅に、時に力強く、個性豊かなダンスを披露した。代表の追中彩さん(法3)は「広いステージで音響も良く、素晴らしい環境で、ベストパフォーマンスを見せることができた」と話した。

このイベントは多摩区・3大学連携協議会の事業の一環として行われ、会場には今年で20周年を迎えた同協議会の活動を振り返るパネルが展示された。また、コンサートの締めくくりには、3大学の学生と観客が一緒に歌を歌うなど、一体感あふれるムードだった。



国書館サーブिस

加藤 三昭

主婦の友社

野口武悟 著

誰ひとり取り残さない図書館サービス〜多様なニーズに寄りそつ8つの事例

語り継ぎ
取り残さない
図書館サービス
国書館サービス
多様なニーズに
寄りそつ
おのづから
野口武悟 著

セクターなどと連携して認知症の人が安心して利用できる図書館づくりを力を入れている。世界で最も高い高齢化率3割の日本では、公共施設の「認知症バリアフリー」はもはや必須といえる。

宮前図書館はそのパイオニア的存在として注目を集めている。

利用できる身近な公共施設である。ところが、図書館の利用を阻む何らかの障壁(バリア)に直面して、思うように利用できない人もいる。例えば、障がい者、高齢者、外国ルーツの人などがバリアに直面しやすい。

このほかに七つの事例を本書では紹介している。なお、本書は、2023年に上梓した『読書バリアフリーの世界』の続編である。あわせてお読みいただけると幸いである。(三和書籍・税込2200円)

本書生田キャンパスがある川崎市。市立宮前図書館では、地域包括支援情報学。